

# 平成27年（2015）3月 入域観光客数概況

3月の観光客数は、65万9000人  
対前年（H26）同月比 +2万8,800人、+4.6%  
～年度の過去最高を更新、初の700万人台～

## 入域状況

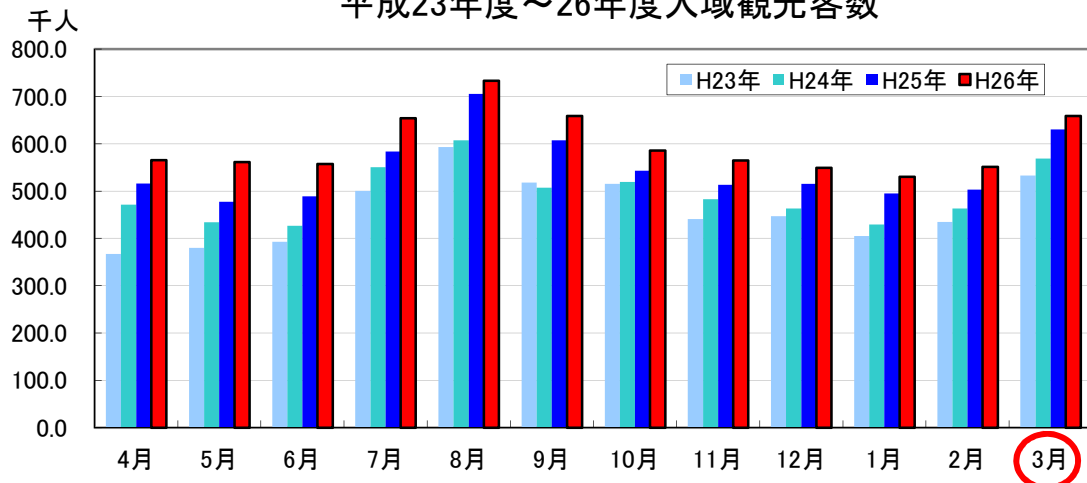
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	580,000 人	581,500 人	△ 1,500人	△ 0.3%	88.0%
外国客	79,000 人	48,700 人	+ 30,300人	+ 62.2%	12.0%
合計	659,000 人	630,200 人	+ 28,800人	+ 4.6%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	580,000 人	581,500 人	△ 1,500人	△ 0.3%	88.7%
外国客	73,600 人	46,100 人	+ 27,500人	+ 59.7%	11.3%
合計	653,600 人	627,600 人	+ 26,000人	+ 4.1%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



## 国内客 入域状況

3月は、春休みの旅行需要等があり、関西や福岡方面の入込は好調であったが、東京及び名古屋方面は一部、航空路線の運休等の影響が続いたため、前年同月比では微減となり、17ヶ月ぶりに前年実績を下回った。

4月以降は、連休の予約状況が好調となっていることや、LCCの新規就航、各キャリアの増便による航空路線の拡充により、好調に推移する見込み。

## 外国客 入域状況

3月は、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増により、台湾、韓国、中国、香港の重点市場からの入込が好調であった。

4月以降は、引き続き航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増の見通しにより、空路・海路ともに増加する見込み。

## 国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	279,600 人	293,500 人	△ 13,900人	△ 4.7%	48.2%
関西方面	117,700 人	111,000 人	+ 6,700人	+ 6.0%	20.3%
福岡方面	71,700 人	66,900 人	+ 4,800人	+ 7.2%	12.4%
名古屋	45,800 人	48,500 人	△ 2,700人	△ 5.6%	7.9%
その他	65,200 人	61,600 人	+ 3,600人	+ 5.8%	11.2%
合計	580,000 人	581,500 人	△ 1,500人	△ 0.3%	100.0%

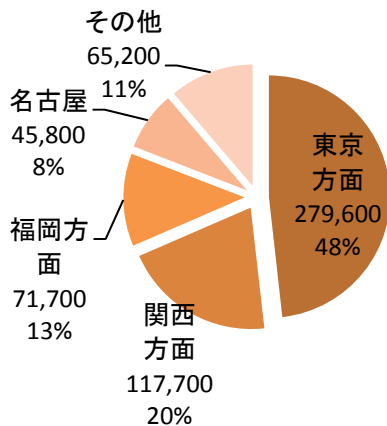
※国内海路客3,200人を含む(鹿児島2,400人、関西100人、その他700人)

## 外国客 国籍別入域状況

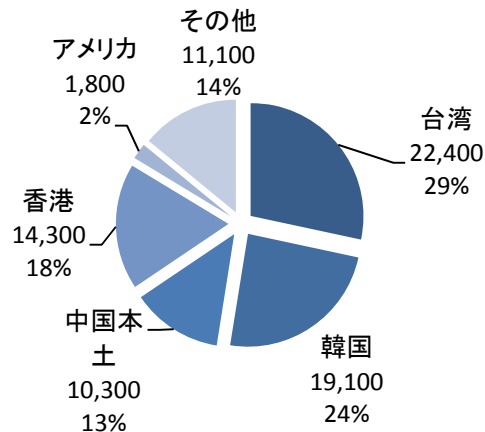
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	22,400 人	22,400 人	15,300 人	+ 7,100人	+46.4%	28.4%
韓国	19,100 人	19,100 人	10,100 人	+ 9,000人	+89.1%	24.2%
中国本土	10,300 人	10,300 人	8,600 人	+ 1,700人	+19.8%	13.0%
香港	14,300 人	14,300 人	8,100 人	+ 6,200人	+76.5%	18.1%
アメリカ	1,800 人	1,800 人	1,200 人	+ 600人	+50.0%	2.3%
その他	11,100 人	5,700 人	5,400 人	+ 5,700人	+105.6%	14.1%
合計	79,000 人	73,600 人	48,700 人	+ 30,300人	+62.2%	100.0%

### 国内客の地域構成比



### 外国客の国籍構成比



## 外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	18,700 人	18,700 人	+22.2%	28.0%	3,700 人	3,700 人	皆増	30.6%
韓国	19,100 人	19,100 人	+89.1%	28.6%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	10,300 人	10,300 人	+178.4%	15.4%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	14,100 人	14,100 人	+74.1%	21.1%	200 人	200 人	皆増	1.7%
アメリカ	900 人	900 人	+28.6%	1.3%	900 人	900 人	+80.0%	7.4%
その他	3,800 人	3,800 人	+35.7%	5.7%	7,300 人	1,900 人	+180.8%	60.3%
合計	66,900 人	66,900 人	+64.4%	100.0%	12,100 人	6,700 人	+51.3%	100.0%

## 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

3月は、前月からのANAの羽田－石垣路線の増便等により、前年同月に比べて、羽田の入込は増加したが、成田路線の減便が影響し、前年度を下回った。  
4月以降は、ジェットスター・ジャパンの成田－那覇路線の増便や、連休は好調な予約状況となっていること等から、一定の増加が期待される。

### 大阪

3月は、スカイマークの神戸－那覇路線の減便の影響等があったものの、伊丹空港及び関西空港からの入込が順調に増加し、前年度を上回った。  
4月以降は、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便や、連休の予約状況が好調となっていること、6月からANAの関西－宮古路線の約9年ぶりの再開が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

### 福岡

3月は、前月からのスカイマークの減便の影響はあるが、前年同月に比べて全体の提供座席数は増加しており、前年度を上回った。  
4月以降は、連休の予約状況が好調で、スカイマークの福岡－那覇路線の減便終了、ANAの福岡－石垣路線の運航が再開されること等から、好調に推移する見込み。

### 名古屋

3月は、春休みの旅行需要はあったものの、前月からのスカイマークの減便の影響が続き、前年度を下回った。  
4月以降は、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線の新規就航や、連休の予約状況が好調となっていることから、一定の増加が期待される。

### 台湾

3月は、スタークルーズ船が例年より1ヶ月早く運航開始したことや、航空路線の拡充から空路・海路ともに増加し、前年度を上回った。  
4月以降は、クルーズ船の前年を上回る寄港の見通しや、航空路線の拡充やチャーター便の就航等が予定されており、空路・海路ともに順調に増加する見込み。

### 韓国

3月は、オフシーズン(新学期、連休なし)にあたったが、前年同月に比べて航空路線拡充の影響や、多様な旅行商品の販売等で好調を維持し、前年度を上回った。  
4月以降は、旅客船沈没事故から1年の旅行自粛ムードが懸念されるが、個人旅行が伸びていることや、5月は2つの連休における予約状況が好調となっていることから、順調に増加する見込み。

### 中国本土・北京

3月は、春節後の落ち込みはあるものの、定期チャーター(西安－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。  
4月以降は、引き続き、航空路線の拡充による空路客の増加が見込まれるが、日本本土への花見旅行等の他方面との競合が懸念されることから、大幅な増加は難しいと予想される。

### 中国本土・上海

3月は、例年春節後の旅行需要は減少となるが、定期チャーター(杭州－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。  
4月以降は、中国東方航空の上海－那覇路線の増便等により航空路線が拡充することから、空路客を中心に増加する見込み。

### 香港

3月は、前月のピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航等による航空路線の拡充で好調を維持し、前年度を上回った。  
4月以降は、4月前半の連休による旅行需要や、香港ドラゴン航空の増便等により航空路線が拡充することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。